

第二部 パネルディスカッション

司 会：鈴木 好和（東北学院大学大学院経営学研究科長）
パネリスト：坂井 道郎，山田 洋一郎，本間 充，
矢口 義教（東北学院大学経営学部准教授），
秋池 篤（東北学院大学経営学部講師）

鈴木 これから、パネルディスカッションになりますが、時間がありませんので、先生方に手短かにコメントをいただきます。最初に、矢口先生お願いします。

矢口 経営学科の矢口と申します。コメントを簡単にだけさせていただきます。

今回、坂井会長からは、入社背景から会社の中での仕事、そこで、変わるもの、変わらないもの、何をしたいのかについてお話しいただきました。その中で、私が特に注目したのは、CSRの重要性を坂井会長が言ってくれたことが良かったと思いました。学生としても、長く社会で働いていく、そのためには倫理観を持って不祥事だとか、そういうのには手を染めないで、きちんと清く正しく生きていく、働いていくということが大切なんだろうと思いました。一応、私としてもCSR研究者で、CSRの授業をしている者としては、後押しをしていただいたようで大変ありがたかったです。

そして、山田社長からは、何にしても大日本印刷時代のエピソードが、なかなか壮絶だったなと思いました。営業マンとして、この世の中の不条理に直面しながらも、曲げないで切り開いていった。そして、さらに、48歳で起業して、起業したその勇気も素晴らしいんですけども、勇気だけじゃなくて、そして、今の現在のル・プロジェの成果にも結び付けている。これがとても素晴らしいと感じました。

そして、最後に本間社長の講演では、何にしても事業承継における悩み。これが一番あったのかなと。どうしても偉大な先人という人たちがいると、過去からの経路依存、行為に依存してしまう。そこで、本間社長は自分の仕事の価値を見いだして、創業者という意識、これを自分で持つことが今の震災を乗り越えた、今の発展につながっているんじゃないかなというように感じました。

質問もあったんですが、ちょっと時間もないので、秋池先生にバトンタッチいたします。

鈴木 秋池先生、お願いいたします。

秋池 本日、3名の先生がたにご講演いただきまして、私は経営戦略論やイノベーション・マネジメントの専門なのですが、やはり、経営者の意思決定が重要であるというお話をいただいたの

かなと思っております。坂井様より、昨今変化が激しく生じていて、そういう中でいかに変化に対応して戦略を変えていくかが重要であるとお話いただきました。そのときには経営者の意思決定が非常に大事だなと思います。山田様は、脱サラしての起業というところで、その時点で大変な意思決定があったのではないのかなと思います。デジタル化であったり、そういうものへの対応の話であったり、他の企業では外注している中で、内製化をあえてとられているというような戦略を考えていったりする時の意思決定も含めて、意思決定が大事だと思いました。本間様も、事業継承なされた後の機動力、利便性を生かした戦略に変えていこうというような部分で、意思決定の重要性というのがあったのではないかと思います。本来であれば、ここで最も大事にしている基準というのをお聞かせいただきたかったのですが、今回、こちらを感想とさせていただきます終わりたいと思います。

鈴木 ありがとうございます。

長い間ご清聴いただきましてありがとうございます。これで、閉会させていただきます。